

ラグビーの卵急増中

W杯日本躍進

ラグビーのワールドカップ(W杯)日本大会で初のベスト8入りを果たした日本代表の躍進を受け、県内でもラグビー熱が高まっている。小学生と未就学児が対象のスクールで体験希望者や加入者が急増。県ラグビー協会やスクールの指導者は「未来のラグーマンを増やす好機」と体験会を積極的に開いている。

(藤田龍治)



ラグビーを体験する子どもたち
(10月6日、広島少年ラグビースクール提供)

広島市西区を拠点とする広島少年ラグビースクール(RS)には9月以降、週末の練習日に体験希望者が相次いで訪れている。この約2カ月間で約20人が参加し、うち14人が加入を決めた。今月10日には体験会を予定する。

保育園年長の川上蒼以君

(5) 西区は9月下旬に

スクール入り。母親の綾子

さん(38)は「親子でラグビ

ーに興味を持った。息子は

習っていることを誇らしげ

にしている」。荒井修監督

(77)は「体験会を待ち切れ

ずに練習を見に来る家族も

多い。ラグビー界の悲願で

県内各地 子どもスクールに続々

ある競技人口の増加につながれば」と期待する。

小学生と未就学児を対象にしたスクールは県内に9団体。各団体は、この好機を逃すまいとPRを強める。竹原RSは竹原市内の小学校にチラシを配布。9月末にあった体験会には、約20人の在籍者に迫る過去最多の17人が集まった。今月2日にも開き、終了後には一緒にW杯決勝戦のテレビ中継を見る。

尾道RSは、強豪・尾道高ラグビー部員の協力を得てW杯開幕後、体験会を2回開いた。細谷淳代表(43)は「仲間と協力する気持ちを学びたいと訪れる子が増えた」と喜ぶ。各団体は7、9月に放送された、ラグビーを題材にしたドラマ「フーサイド・ゲーム」の影響も大きいとみる。

4年前のW杯後も一時的に体験者が増えたスクールがあった。同協会の森川清司・普及育成委員長(64)は「一過性に終わらせたくない。各スクールの体験会や練習に気軽に参加してもらい、競技の魅力を感じてほしい」と呼び掛ける。